

# 檜葉町における 福島イノベーション・コースト構想関連の取組

檜 葉 町



檜葉町のマスコットキャラクター  
「ゆず太郎」

- 1 檜葉町の立地
- 2 檜葉町の復興の進捗状況
  - (1)まちづくりの充実
  - (2)生活環境の充実
- 3 檜葉町の研究機関との連携状況
- 4 檜葉町の産業集積
  - (1) 廃炉・廃炉技術応用分野
  - (2) ロボット分野
  - (3) 農林水産業分野
  - (4) エネルギー分野
  - (5) 放射線安全・健康、リスクコミュニケーション分野
- 5 国際教育研究拠点の誘致
- 6 檜葉町独自の企業誘致施策

# 1 檜葉町の立地



広野IC  
檜葉町南部に最寄りの常磐自動車道のIC。



1 ならばスマートIC  
常磐自動車道の広野ICと常磐富岡ICの間に、ETC利用者のためのスマートICが設置された。



2 竜田駅  
檜葉町役場、笑ふるタウンならば、ならばスカイアリーナ、天神岬スポーツ公園の最寄り駅。  
駅周辺に、廃炉関連事業所や宿舎等が立地する予定。



3 木戸駅  
木戸川、まなび館、道の駅ならば、カントリーエレベーター、水稻育苗センター、甘藷貯蔵施設の最寄り駅。



4 Jヴィレッジ駅  
令和2年3月14日常磐線全線開通に合わせて、常設駅となる。  
Jヴィレッジ、檜葉南工業団地の最寄り駅。

## 2 梶葉町の復興の進捗状況

ならばスカイアリーナ

総合グラウンド



ならばCANvas

天神岬温泉しおかぜ荘



梶葉町は、原子力災害からの復興の最前線。

生活環境も既に整備され、居住人口が増加し、震災前の約6割に。

Jヴィレッジ



JAEA 梶葉遠隔技術開発センター (NARREC)



## 2 檜葉町の復興の進捗状況 (1)まちづくりの充実



### 笑ふるタウン

災害公営住宅や分譲地が集まるコンパクトタウンに、スーパー、ホームセンター、飲食店等からなる商業施設「ここなら笑店街」や交流施設ならはCANvasが立地。



### 天神岬スポーツ公園

太平洋を一望できる温泉施設しおかぜ荘やサイクリングターミナル等が立地。



### ならはスカイアリーナ、 総合グラウンド

総合運動施設として、プロスポーツチームの合宿地となっている。



### Jヴィレッジ

サッカーの聖地。  
サッカー日本代表が合宿するナショナルトレーニングセンター。



### 道の駅ならは

国道6号沿いに立地する道の駅。  
温泉施設、物産館があり、復興のシンボル施設。

## 2 檜葉町の復興の進捗状況 (1)まちづくりの充実 笑ふるタウンの状況



災害公営住宅、分譲地  
災害公営住宅123戸が立地。  
分譲地は、戸建て住宅分49区画、集合住宅分6区画立地。  
今後の展開に応じて、拡大も検討。



ここなら笑店街  
スーパー、ホームセンター、飲食店、カフェ、理容室、クリーニング店等が立地。  
今後、郵便局も立地予定。



ならはCANvas  
飲食や休憩ができ、最近ではテレワークを行う方も。  
まちの交流拠点。

住みよい環境が実現し、  
居住人口が増加中。

## 2 檜葉町の復興の進捗状況 (1)まちづくりの充実 笑ふるタウンの状況



福島県立ふたば医療センター  
附属ふたば復興診療所  
(ふたばリカール)  
県立の診療所。



ならは薬局  
令和2年6月にオープン  
した公設民営で設置した  
薬局。



檜葉町立あおぞらこども園  
町が設置した幼保連携型認  
定こども園。  
園児数が増加中。

みんなが住みよい街へ。

## 2 檜葉町の復興の進捗状況 (2)生活環境の充実

### 安心の子育て環境



檜葉町立あおぞらこども園

幼保連携型認定こども園を町が設置。

ALTによる英語教育や安田式体育遊びを導入。



小学校、中学校

タブレットを使ったオンライン授業を一早く実施。

檜葉中学校では、模擬会社「Nalysゆずスマイル檜葉」を作って、町の特産品を用いた商品開発を行うキャリア教育を実施。

### 生きがいづくりも充実



檜葉まなび館

町の生涯学習の拠点。

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライトが入居。

地域包括ケアシステム

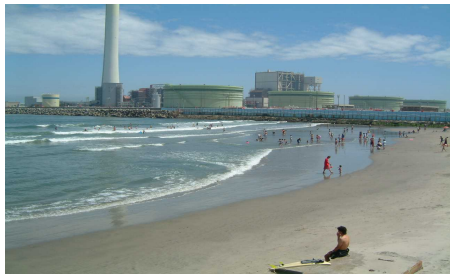
医療、介護、福祉、住まい等の総合的な支援を包括的に提供する地域包括ケアシステムを展開。

子育て世帯のみならず、  
全ての方が住みよい環境。



### 3 檜葉町の復興の進捗状況 (2)生活環境の充実

見どころも満載。



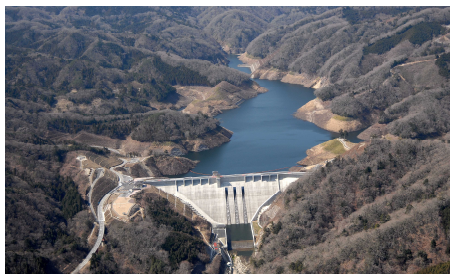
岩沢海水浴場



天神岬温泉しおかぜ荘



木戸川の鮭漁



木戸ダム



木戸川溪谷

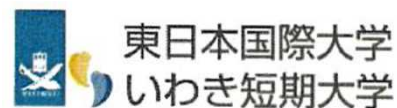
海も山も川も満喫。

### 3 楡葉町の研究機関との連携状況



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

福島イノベーション・コースト構想推進に向けた学術研究活動支援事業の重点枠として、福島復興知学の構築と展開。



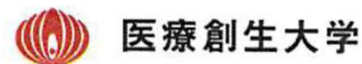
東日本国際大学  
いわき短期大学

協定を締結し、互いに協力。



筑波大学  
University of Tsukuba

中学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実施に協力。



医療創生大学

協定を締結し、互いに協力。



国立大学法人  
福島大学  
Fukushima University

令和2年8月まで、うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライトが立地。



独立行政法人国立高等専門学校機構  
福島工業高等専門学校  
National Institute of Technology, Fukushima College

協定を締結し、互いに協力。



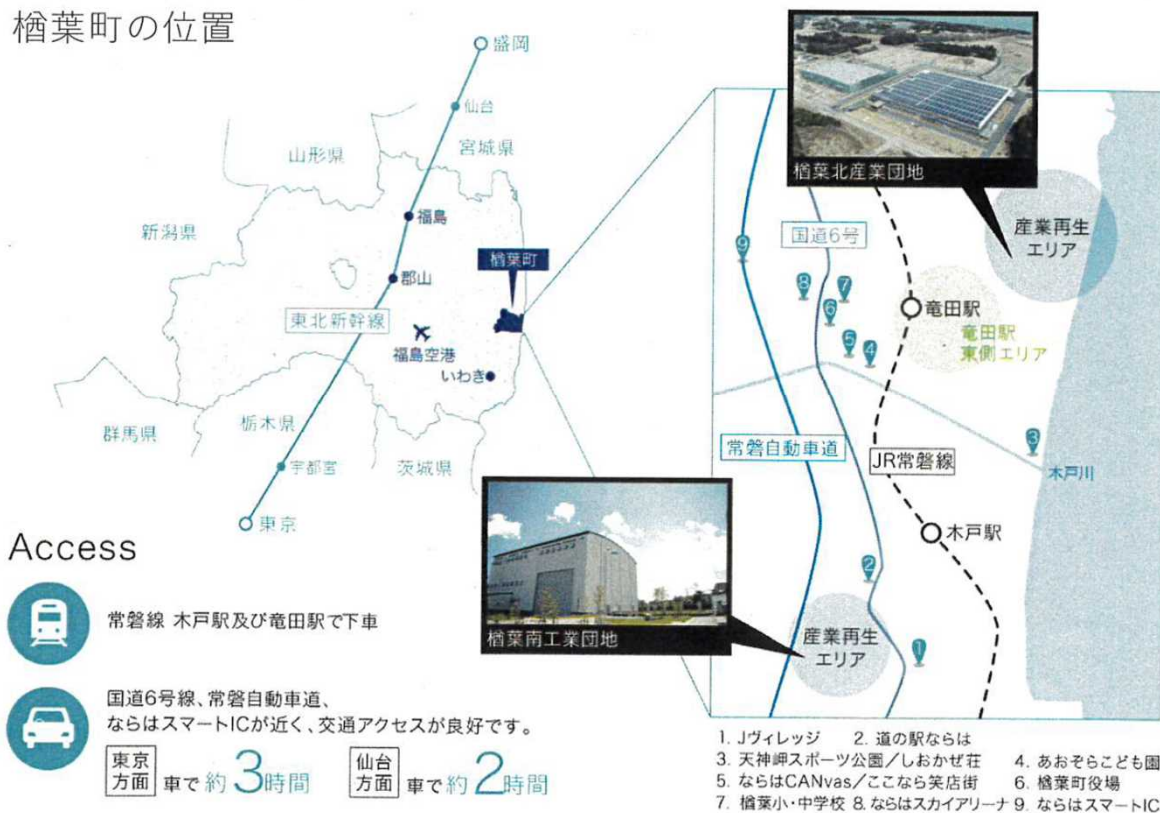
国立研究開発法人  
日本原子力研究開発機構

楡葉遠隔技術開発センターが立地。

## 大学等との連携が進行中。

# 4 楡葉町の産業集積

楡葉町の位置



太陽光発電パネル等の製造を行っている。  
町と協定を結び新製品開発も進めている。



水酸化リチウム製造を行うため、工場を建設中。  
楡葉町の工場をマザー工場として事業拡大を行う。



新技術のベンチャー企業なので、同じように挑戦する企業が集まり、チャレンジできる町として国内で認知してもらいたい。

楡葉町には、多くの企業が立地し、今後も立地が進む予定。

こうした企業に加え、研究機関や企業の更なる立地も推進中。

## 4 楡葉町の産業集積

### (1) 廃炉・廃炉技術応用分野



福島第二原子力発電所

楡葉町と富岡町に立地。

廃炉は、約40年を要する計画。



JAEA楡葉遠隔技術開発センター  
(NARREC)

福島第一原子力発電所の廃炉作業の安全な実施等に必要なロボット等の遠隔操作機器の開発や実証実験等を行う施設。

福島第二原子力発電所が立地する町として、隣の富岡町とともに、廃炉産業の地元企業による受注に向け、協議会を設置。



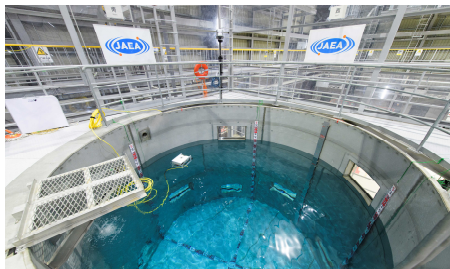
## 4 梶葉町の産業集積 (2)ロボット分野



### JAEC梶葉遠隔技術開発センター (NARREC)

福島第一原子力発電所の廃炉作業の安全な実施等に必要となるロボット等の遠隔操作機器の開発や実証実験等を行う施設。

VR活用による試験や水中試験もできる施設。



JAEC梶葉遠隔技術開発センターの機能を生かして、研究機関や企業が実験等ができる環境。

## 4 檜葉町の産業集積 (3)農林水産業分野



### さつまいも

一大産地化を目指し、大規模に、機械化して栽培。

貯蔵施設も整備し、加工商品も検討中。



### トマト

施設内でICTを活用し、室温や水等を管理した栽培方法を導入。



### 水稻

カンントリーエレベーターや水稻育苗センターが整備され、作付は震災前の約6割に。



### 木戸川の鮭

木戸川では、鮭漁が再開し、鮎の稚魚も試験放流を実施。

さつまいもの一大産地化を目指すとともに、ICTを活用した農業を推進。

水稻作付は、震災前の約6割に。

木戸川では、鮭漁を再開。

## 4 檜葉町の産業集積

### (4) エネルギー分野



波倉メガソーラー  
沿岸部において、大規模に太陽光発電。



洋上浮体式風力発電  
太平洋上の檜葉町沖合にて風力発電。



エネルギー分野の企業立地



太陽光発電パネルやリチウムイオン電池の製造企業が町内に立地。



ならはスカイアリーナ  
屋上や敷地内で太陽光発電。



笑ふるタウン  
スマートコミュニティとして、災害公営住宅や商業施設等において、屋上や敷地内で太陽光発電。

メガソーラー事業や笑ふるタウンを中心としたスマートコミュニティ事業を実施中。

再生可能エネルギー関連の企業も立地している。

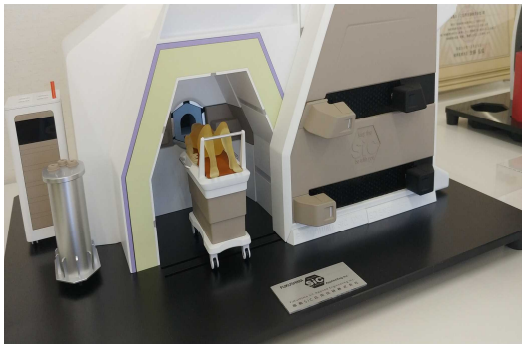


## 4 梶葉町の産業集積

### (5)放射線安全・健康、リスクコミュニケーション分野



JFAメディカルセンター、スポーツ医療診療施設  
Jヴィレッジにある診療所等の再開を求めている。



福島Sic応用技研株式会社

梶葉南工業団地に立地。

ガン治療等に用いる医療用  
中性子線照射システムを開発、  
生産。

株式会社Jヴィレッジに  
JFAメディカルセンターや  
スポーツ医療診療施設の  
再開を求めるとともに、  
町に立地する企業の技術も  
活用。



## 5 国際教育研究拠点の誘致

檜葉町では、こうした  
大学や研究機関との連携実績や  
産業の集積、  
充実した生活環境等を活かして、  
国際教育研究拠点の立地を  
目指しております。

## 6 檜葉町独自の企業誘致施策

### 檜葉町操業奨励金

物品製造業で工場の新増設、取得、借受に係る床面積1平方メートル当たり1,000円を交付(工場、検査室、機械室、更衣室、トイレ、食堂等が対象)。

※この他、既に立地している企業には、新型コロナウイルス対策として、経営支援助成や雇用・就業支援助成、県制度資金の利子補給助成を実施している。